



玉井商船

平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月9日

上場会社名 玉井商船株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9127 URL <http://www.tamaiship.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐野 展雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 木原 豊 (TEL) 03-5439-0260
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日~平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	1,061	△41.3	△228	—	△244	—	317	—
25年3月期第1四半期	1,809	36.8	△73	—	△115	—	△102	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 355百万円(—%) 25年3月期第1四半期 △122百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	16.45	—
25年3月期第1四半期	△5.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	16,324	5,382	32.0
25年3月期	13,826	5,028	35.2

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 5,217百万円 25年3月期 4,866百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	0.00	0.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

・26年3月期期末配当予想額は、現時点では引続き未定です。

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,300	△6.0	110	—	50	—	530	—	27.45
通期	6,800	2.8	200	—	40	—	530	—	27.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	19,320,000株	25年3月期	19,320,000株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	10,941株	25年3月期	10,941株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	19,309,059株	25年3月期1Q	19,310,235株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

26年3月期期末配当につきましては、現時点で引続き未定とさせていただき、今後の業績推移や事業環境などを勘案した上で、予想可能と判断されるに至った時点で、あらためてお知らせすることとさせていただきます。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあつた際の注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国では堅調な個人消費をうけ底堅く成長が続き、欧州では景気の底打があったとみられるものの回復にもたつき、中国やインドなどの新興国では景気回復ペースが緩やかであったものの世界全体では緩やかな回復が続きました。一方、わが国経済は、積極的な財政・金融政策を進め個人消費が底堅く推移し生産の持ち直しが続き輸出も円安と世界経済の回復を背景に緩やかに持ち直しました。

外航ドライバルク船の海運市況は、ピーク時は過ぎたものの前連結累計期間に引き続き新造船の大量運竣工による供給圧力が高く、また新興国の景気後退による荷動き量の減少などから市況は低迷しました。徐々に新造船の竣工隻数は減少していますが、市況の本格的な回復までにはもう少し時間がかかると思われま

す。このような状況下、当社グループの外航海運部門では、ハンディマックス船型を中心に堅実な営業活動を行い、減速運航や太平洋と大西洋を結ぶトランスオーシャン配船を積極的に進め、空船航海を極力減らし運航コスト削減を行い採算の安定化と向上を図りました。またこれまで北米から日本への穀物輸送に就航していました「NIKKEI TIGER」を5月31日に海外売船し6月7日に代替新造船「NIKKEI SIRIUS」を就航させ支配船腹の増強を図りました。この結果、前第1四半期連結累計期間に比べ市況水準が引き続き低迷していたものの、対米ドルの円為替レートが1ドル100円前後で推移したことや燃料油価格がトン650ドル程度に値下がりしたことなどから各船毎の採算は改善されましたが、予定していた北米からの穀物船2隻、南米からの水酸化アルミナ船1隻の航海完了が翌第2四半期連結会計期間にずれ込んだことにより減収となり、また所有船が入渠したことにより船費が増加し減益となりました。一方、内航海運部門では、ドライ貨物で輸送量は僅かに増えたものの、営業収益及び利益の大部分を占めていた「羽衣丸」を前連結会計年度に売船し、また「第二にちあす丸」を5月22日に海外売船したことで減収・減益となりました。当社グループ全体では、前第1四半期連結累計期間に比べ大幅な減収となりましたが、「NIKKEI TIGER」及び「第二にちあす丸」の売船益により最終利益となりました。

この結果、営業収益は1,061百万円（対前第1四半期連結累計期間比△748百万円、41.3%減）、営業損失は228百万円（前第1四半期連結累計期間73百万円の営業損失）、経常損失は244百万円（前第1四半期連結累計期間115百万円の経常損失）、また四半期純利益は317百万円（前第1四半期連結累計期間102百万円の四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。なお、前第3四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前第1四半期連結累計期間との比較は変更後の区分により作成した情報に基づいて記載しております。

・外航海運業

支配船舶による北米からの輸入穀物や南米からの水酸化アルミナや海外へのスラグなどの輸送を行い、運航採算の向上に努めました。

営業収益は、前第1四半期連結累計期間に比べ、予定していた北米からの穀物船2隻、南米からの水酸化アルミナ船1隻の航海完了が翌第2四半期連結会計期間にずれ込んだことにより航海数の減少したことなどにより、900百万円（対前第1四半期連結累計期間比△575百万円、39.0%減）となりました。営業費用は、所有船の入渠があり船費の増加があったものの、航海数の減少や燃料油価格が下落したことによる運航費の減少が大きく、全体として減少しました。以上の結果、営業損失は、70百万円（前第1四半期連結累計期間30百万円の営業利益）となりました。

・内航海運業

定期用船2隻による水酸化アルミなどの輸送を行い、安全輸送と効率配船に努めるとともに、所有船1隻の定期貸船により安定収益の確保を図りました。

営業収益は、前第1四半期連結累計期間に比べ、ドライ貨物で輸送量は僅かに増えたものの、営業収益及び利益の大部分を占めていた「羽衣丸」を前連結会計年度に売船し、また「第二にちあす丸」を5月22日に海外売船したことでなどにより、124百万円（対前第1四半期連結累計期間比△173百万円、58.2%減）となりました。営業利益面では、所有船の減少で船費等が減少しましたが、営業収益の大幅な減収で32百万円の営業損失（前第1四半期連結累計期間24百万円の営業利益）となりました。

・不動産賃貸業

不動産賃貸業においては、営業収益は、36百万円（対前第1四半期連結累計期間比0百万円、2.3%増）、営業利益は、13百万円（同4百万円、54.0%増）となりました。

（注）営業利益は配賦不能営業費用（138百万円）控除前のものです。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,498百万円増加し、16,324百万円となりました。主な内容は、流動資産が主に現金及び預金や繰延及び前払費用等のその他流動資産の増加などにより426百万円増加し、固定資産は、主に船舶の取得などで2,072百万円増加したことによるものです。負債は10,942百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,144百万円の増加となりました。これは、前受金の増加などによる流動負債の増加が1,038百万円、長期借入金、繰延税金負債の増加などによる固定負債が1,105百万円増加したものであります。

純資産は、四半期純利益による株主資本の増加317百万円とその他有価証券評価差額金の増加によるその他の包括利益累計額の増加34百万円と少数株主持分の増加2百万円により、前連結会計年度末に比べ354百万円増加し、5,382百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結会計期間以降における業績予想の見直しを行った結果、平成25年5月10日付当社「平成25年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」において発表いたしました平成26年3月期の第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日別途開示する「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、第2四半期以降の為替レート及び燃料油価格は下記の通り想定しております。

	前回予想 (平成25年5月10日公表)	今回予想 (平成25年8月9日公表)
期中平均為替レート	1US\$=98円	1US\$=98円
予想燃料油価格	US\$670/MT	US\$650/MT

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,862,533	1,924,332
海運業未収金	171,721	142,894
貯蔵品	321,944	393,974
繰延税金資産	84,310	21,539
その他流動資産	352,195	735,965
流動資産合計	2,792,705	3,218,706
固定資産		
有形固定資産		
船舶（純額）	8,168,482	10,888,119
建物（純額）	310,290	315,278
器具及び備品（純額）	7,601	6,879
土地	168,938	168,938
建設仮勘定	1,538,894	774,118
その他有形固定資産（純額）	5,316	3,539
有形固定資産合計	10,199,524	12,156,874
無形固定資産		
	3,806	3,473
投資その他の資産		
投資有価証券	590,497	645,229
繰延税金資産	164,273	223,946
その他長期資産	75,474	76,755
投資その他の資産合計	830,245	945,931
固定資産合計	11,033,576	13,106,279
資産合計	13,826,281	16,324,986

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
海運業未払金	264,415	371,867
短期借入金	30,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	669,100	819,800
未払法人税等	10,408	34,590
前受金	330,001	1,143,119
賞与引当金	33,047	6,874
その他流動負債	162,948	112,281
流動負債合計	1,499,921	2,538,533
固定負債		
長期借入金	6,498,032	7,475,138
繰延税金負債	460,554	629,966
退職給付引当金	44,916	38,817
特別修繕引当金	97,607	63,000
長期未払金	71,200	71,200
資産除去債務	12,096	12,147
その他固定負債	113,385	113,416
固定負債合計	7,297,791	8,403,684
負債合計	8,797,713	10,942,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	702,000	702,000
資本剰余金	280,268	280,268
利益剰余金	3,805,347	4,122,910
自己株式	△1,312	△1,312
株主資本合計	4,786,303	5,103,866
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	79,871	114,010
その他の包括利益累計額合計	79,871	114,010
少数株主持分	162,393	164,890
純資産合計	5,028,568	5,382,768
負債純資産合計	13,826,281	16,324,986

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
海運業収益	1,773,905	1,024,799
海運業費用	1,717,475	1,124,579
海運業利益又は海運業損失(△)	56,430	△99,779
その他事業収益	36,070	36,883
その他事業費用	11,502	8,808
その他事業利益	24,568	28,075
営業総利益又は営業総損失(△)	80,998	△71,704
一般管理費	154,645	156,681
営業損失(△)	△73,647	△228,385
営業外収益		
受取利息	121	204
受取配当金	7,833	8,865
為替差益	—	18,035
その他営業外収益	10,180	2,157
営業外収益合計	18,136	29,263
営業外費用		
支払利息	36,265	35,487
支払手数料	9,557	6,819
為替差損	13,082	—
その他営業外費用	980	3,442
営業外費用合計	59,886	45,749
経常損失(△)	△115,397	△244,872
特別利益		
固定資産売却益	—	754,094
特別利益合計	—	754,094
特別損失		
投資有価証券評価損	38,384	—
特別損失合計	38,384	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△153,781	509,222
法人税、住民税及び事業税	36,779	34,865
法人税等調整額	△88,777	155,676
法人税等合計	△51,997	190,542
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△101,784	318,680
少数株主利益	441	1,116
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△102,226	317,563

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 (△)	△101,784	318,680
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△20,227	36,999
その他の包括利益合計	△20,227	36,999
四半期包括利益	△122,011	355,680
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△120,239	351,703
少数株主に係る四半期包括利益	△1,772	3,976

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外航海運業	内航海運業	不動産賃貸業	合計		
営業収益						
外部顧客への営業収益	1,476,024	297,881	36,070	1,809,975	—	1,809,975
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,476,024	297,881	36,070	1,809,975	—	1,809,975
セグメント利益又は損失(△)	30,051	24,619	8,502	63,173	△136,820	△73,647

(注) 1 セグメント利益の調整額△136,820千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、提出会社の一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外航海運業	内航海運業	不動産賃貸業	合計		
営業収益						
外部顧客への営業収益	900,365	124,434	36,883	1,061,682	—	1,061,682
セグメント間の内部営業 収益又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	900,365	124,434	36,883	1,061,682	—	1,061,682
セグメント利益又は損失(△)	△70,189	△32,589	13,090	△89,687	△138,698	△228,385

(注) 1 セグメント利益の調整額△138,698千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、提出会社の一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

前第3四半期連結累計期間より、従来「その他」に含まれていた「不動産賃貸業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第1四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。